

2021 年 6 月 1 日

東京電力福島第一原子力発電所事故（以下「1 F 事故」）に関する OECD/NEA
次期プロジェクトについての共通認識

OECD/NEA CSNI 次期中期プロジェクト関係者会議

趣旨

本件は、現在、ARC-F 及び PreADES の 2 つのプロジェクトが 2021 年 12 月末で終了するに当たり、我が国として次期プロジェクト※を提案し、主体的な役割を果たすとの意思の下、関係者の共通認識を明示するもの。ここでの共通認識は、次期プロジェクト終了まで維持されるものとする。

※ここで言う「次期プロジェクト」は、1 F 事故炉からの燃料デブリ回収以前の時期におけるプロジェクトであって、2022 年から開始するものを意味し、SAREF の” Long-term Project” ではない。（Long-term Project については、経済産業省が主体的役割を果たすべきもの。）

経緯

次期プロジェクトについては、これまでのプロジェクトに参加する関係各国の意向も踏まえ、運営の効率性、情報流通の改善、1 F 事故分析としてのワンストップ性の確保などの観点から、経済産業省、オペレーティングエージェンシー（OA）である日本原子力研究開発機構（JAEA）/安全研究センター及び廃炉国際共同研究センター（CLADS）、テクニカルエキスパート（TE）を派遣してきた東京電力から、それぞれ、両プロジェクトの活動分野を包含する統一された次期プロジェクトの立案調整及びプロジェクト開始後の一元的指揮を原子力規制庁に対して要望したことが発端である。

これら要望を受けて、原子力規制庁を中心に次期プロジェクトについて検討を進めた結果、原子力規制庁は 2021 年 6 月に開催される OECD/NEA/CSNI (Committee on the Safety of Nuclear Installations) において、次期プロジェクトに関するコンセプト（別紙 1 参照）を表明することとしている。

共通認識事項

原子力規制庁、経済産業省、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、JAEA/安全研究センター、JAEA/CLADS、東京電力（以下「参加機関」という。）は、1 F 事故を引き起こした当事国の関係機関として、1 F 事故に関する研究活動を推進するとともに、その成果及び自らが収集したプラント情報などを国際社会に対して積極的に公開提供する意志を表明する。

ARC-F 及び PreADES は 2021 年 12 月末を以て終了し、次期プロジェクトは単一の Management Board (MB) の下で管理される単一のプロジェクトとして組織する。次期プロジ

プロジェクトに係る国内外の研究機関等の参加者との最終調整権者は原子力規制庁とし、参加機関は、原子力規制庁の指揮に従い、次期プロジェクトを遂行する一員として万全の協力と支援を行う。次期プロジェクトの遂行に関する国内関係機関の調整・意思疎通を円滑に行うため、プロジェクト実施期間中、原子力規制庁を議長とする「国内調整会議」（仮称。別紙2参照）を開催する。当該会議に参画する参加機関は、次期プロジェクトへの参加者との間で次期プロジェクトに係る認識・理解の齟齬が生じないように、参加者に供給する情報の内容をリスト化し、それに基づく適切な情報共有が行われるよう取り組む。

次期プロジェクトへの参加者には、過去に ARC-F 及び PreADES 両プロジェクトに提供されたプラントデータなどの情報（BSAF 及び BSAF2 等から引き継いでいるものを含む。）等について、継続的かつ平等なアクセス権が付与される必要がある。このため、参加機関はその実現に向けて、制度上及び財産上発生しうるあらゆる問題の解決を図る。また、次期プロジェクトの遂行上必要となる 1 F 関連のプラント情報であって参加機関が保有するものは、原子力規制庁からの要請があれば、核物質防護、特許権保護などの明確な理由が無い限り、次期プロジェクトに対して開示される。ただし、次期プロジェクトへの参加者は、輸出管理手続や口上書手続は遵守する必要があることを認識する。

原子力規制庁及び経済産業省は、次期プロジェクト実施に必要な予算確保を行う。

以上の点について、参加機関が主体となって具体的に実施すべき事項を以下に示す。

【原子力規制庁】

- ・ 1 F 事故の調査・分析を自ら実施し、次期プロジェクトに資するデータ及び分析結果を提供する。
- ・ 所管及び関係する機関（東京電力、JAEA/安全研究センター）に対し、本文書にある共通認識に基づく行動が実践・遵守されるように指導する。
- ・ プロジェクト実施期間中、年 2 回を目処に「国内調整会議」を開催する。
- ・ 原子力規制庁は、経済産業省と協働で、プラント情報の国際データベース構築の構想を具体化する検討を早急に進め、結論を出す。

【経済産業省】

- ・ 次期プロジェクトへの JAEA/CLADS の貢献に関する原子力規制庁からの評価を踏まえ、当該事業の業績評価を行う。
- ・ 所管及び関係する機関（東京電力、IRID、JAEA/CLADS）、原子力損害賠償・廃炉等支援機構）に対し、本文書にある共通認識に基づく行動が実践・遵守されるように指導する。
- ・ 輸出管理手続や口上書手続の遵守を前提として、1 F サイト情報の提供が実現するように関連機関を指導する。
- ・ 経済産業省は、原子力規制庁と協働で、プラント情報の国際データベース構築の構想の検討に協力する。

【JAEA】

- ・次期プロジェクトの実施に係る一本化された指揮系統及び連絡窓口を確立し、次期プロジェクトの実施面を遂行する。(別紙3参照)

【東京電力】

- ・プロジェクトへの提供情報に応じた適切なTEを派遣し、これまで収集した情報も含め自ら収集、保有する1Fプラント関連情報の供給を行う。

【原子力損害賠償・廃炉等支援機構】

- ・東京電力が行う事故調査の内容及び収集・保有するデータの公表・提供を支援・促進する。

Concept of Next-Phase Fukushima Daiichi Project

The 69th Meeting of the CSNI of the OECD/NEA

June 2-3, 2021

Online

Masaya Yasui

The Secretariat of the Nuclear Regulation Authority

Background

NEA Secretariat conveyed its understanding of partners' views concerning the next-phase project.

- Next-phase project is welcomed and preferred to start as early as possible in 2022.
- Current projects (ARC-F and PreADES) should be merged and be under one Management Board.
- A general coordinator to be designated in Japan.

Importance of elaborating and addressing opinions of the current two projects partners.

- ARC-F and PreADES are "projects", therefore participants' opinion should be respected.
- Though the understanding of the NEA Secretariat has been addressed, individual opinions of the participants have not yet been formalized and addressed in detail.

Direction of the Next-Phase Project

(My image but must be discussed with the current participants.)

- Next-phase project is not a "long-term project" of SAREF.
- One Management Board and one Program Review Group for more efficient operation and better communication.
- Incorporate not only ARC-F and PreADES but also BSAF et al.
- Clear image of the data which will be provided to the participants to be prepared.
- Simplified structure inside the Operating Agent (JAEA).
- Equal access to the related information within the participants of next-phase project.
- Flexibility in project period to reflect the anticipated delay to the start of the long-term project(s).

Possible Contents of the Next-Phase Project

To be discussed with current participants

(Example)

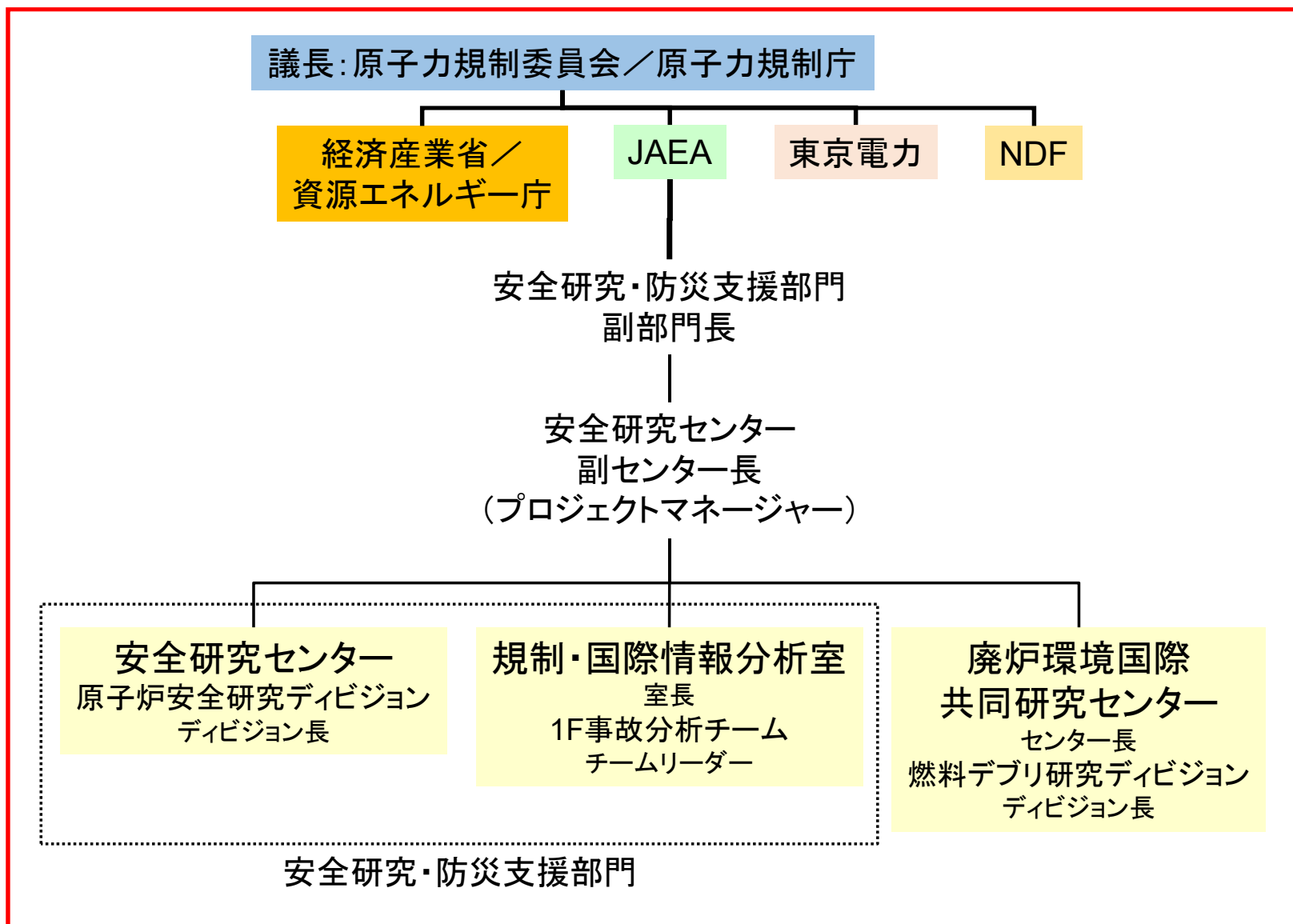
- Large amount of Cs-137 under Shield Plugs.
- Organic cables, penetrations and/or seals could be a source of flammable gases.
- Interaction between organic compounds and FPs.
- Formation process of uranium-bearing material in the CV.

Tentative Schedule

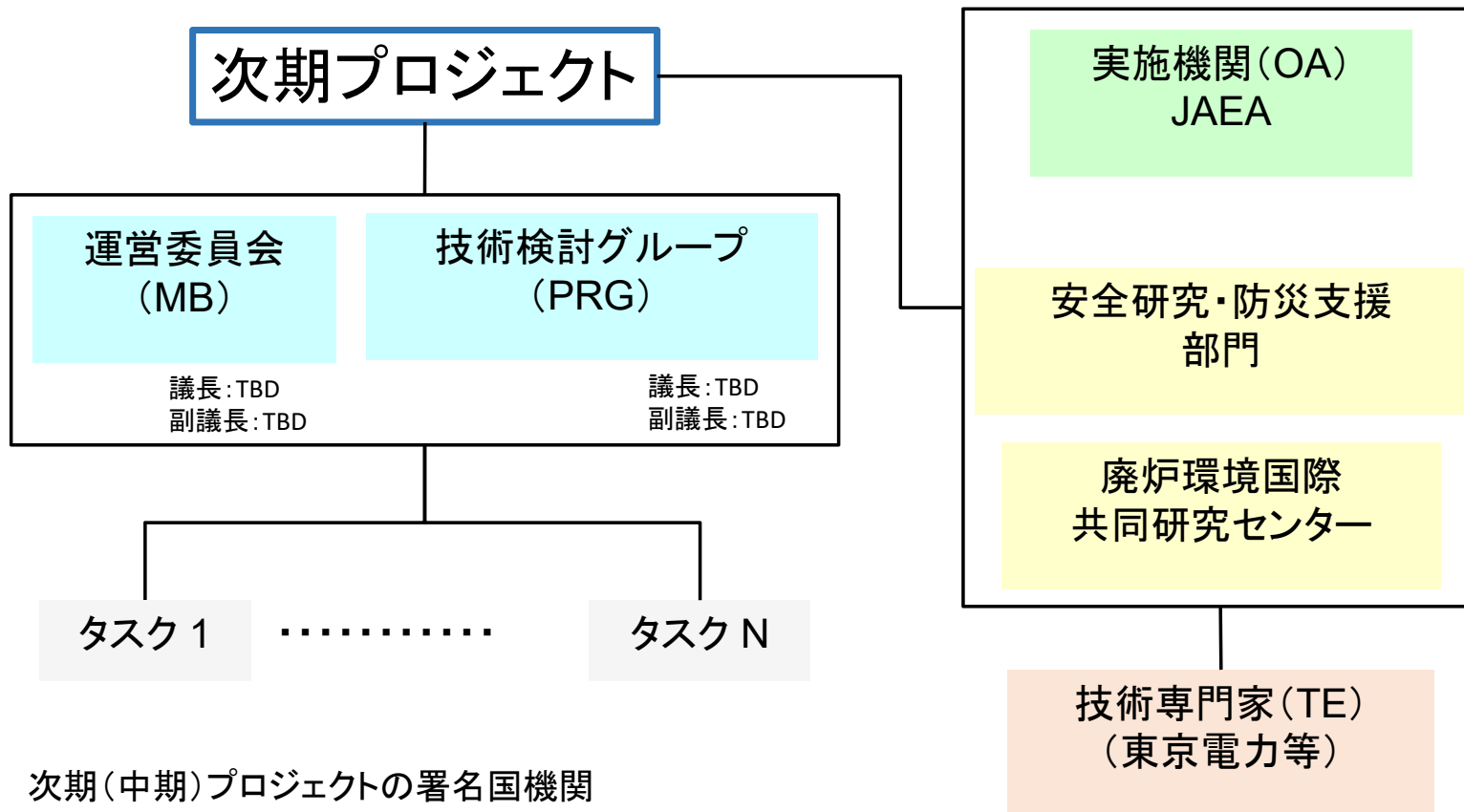
- Discussion in ARC-F project meeting for consolidating important issues
: Beginning July 2021
- Joint-meeting for collecting and addressing the participants' opinion
: late September 2021
- Consolidated project proposal to the CSNI-PRG
: late October 2021
- Consolidated project proposal to the CSNI
: December 2021
- Start the next-phase project
: early 2022

Note: SAREF discussion should be separated from the project making of next-phase.

OECD/NEA 次期プロジェクト体制(国内支援体制)



OECD/NEA 次期プロジェクト体制



次期(中期)プロジェクトの署名国機関
(体制維持の場合 12国23機関)

CNL(カナダ)、SPICRI(中国)、STUK及びVTT(フィンランド)、
CEA、EDF及びIRSN(フランス)、GRS(ドイツ)、KAERI及び
KINS(韓国)、ROSATOM及びIBRAE(ロシア)、CSN(スペイン)、
SSM(スウェーデン)、PSI(スイス)、DOE、EPRI及び
NRC(米国)、CRIEPI、IAE、NRA及びJAEA(日本)、JRC(EC)

参考: 予算規模(実績維持の場合)	
ARC-F	495,000€/3y
Pre-ADES	275,000€/3y
合計	770,000€/3y

MB : Management Board
PRG : Program Review Group
OA : Operating Agent
TE : Technical Expert